



令和4年になりました。本年もよろしくお願いたします。

あの人は「いい人だ」「すごい人だ」と長所の方に目を向けられる人になってほしい

1 物事を肯定的にみる人と否定的にみる人

人には、物事を肯定的にみる傾向のある人と、否定的にみる傾向のある人がいます。特に対人関係においては顕著に現れます。どちらの方が人柄として好まれるかといえば前者になると思います。しかし、この2つは紙一重で、日ごろの物事に対する見方を変えることにより、自分自身を変容させることができるのです。例えば、本校の子どもたちからも聞こえてくるような対照的な見方を以下に示しますが、少し角度を変えれば否定的な見方から肯定的な見方に変えられるということが分かると思います。

	肯定的な見方	否定的な見方
1	あの人はいろいろ私たちに言うけど、自分で言ったことは必ずやりとげるんです。	あの人は偉そうにしている、話を聞いているのも結構つらくなるときがあります。
2	あの人は、突然、今までの話の流れと違うことを言うてきたりすることがあるけど、たぶん思いついたことをすぐに言いたくなる特徴があると思うんです。	あの人は、みんなが盛り上がり話しているときに、全然違うことを言うてきて「しらー」とさせるっていうか、全然空気が読めない人なんです。
3	あの人は頭がいいだけじゃなくて、私たちのことを、いろいろと助けてくれるんです。	あの人は勉強ができることを自慢しているのか、私たちにおせっかいなんです。
4	あの人はきっと恥ずかしがりやなんだと思うんです。でも、聞いたことには答えてくれるので、もしかすると話しかけられるのを待っているのかもしれない。	あの人は聞いたことには答えてくれるけど、それ以外は近くでしゃべっていても、全く無視しているし、そもそも何を考えているか分からない人です。

1～4は同じ子どもに対する別の見方の感想です。少し見方を変えたり、深く考えたりすれば、右側は左側になるのではないのでしょうか。

このような見方の違いは、小・中学校教育においても取り組むべきことではあると思いますが、最も一緒に長く生活しているご家庭の影響も大きいと思います。ご家庭の中で、時事問題に対して批評することは別として、職場の人・近所の人・子どもにとって近い存在である友達や教員のことなどや、外食した時の食事の味や宿泊した場所・受けたサービスのことなどについて、否定的な見方による会話を多くしていると、子どもの中にそのような価値観が根付いていき、子どもも同様な見方をして物事を否定的に見ようとするようになっていくと言われます。

逆に、人に対して、また、いただく食事や受けたサービスなど、何事に対しても肯定的にとらえ「ありがたいね」と感謝しているご家庭の子どもには、物事を肯定的にとらえようとする価値観が身に付きやすいと言われます。

私たち大人も、子どものいる前での言動には、注意しなければならないということだと思えます。

2 物事を否定的にみる人は、ミスをしてしまったときに言い訳から始まる傾向がある

過去に担任をしていたときを振り返ると、いきなり私に理由や状況を説明してくる子どもがいました。何を言いたいのかなと思って聞いていると、結局は蛍光灯を割ってしまったということだったというようなことがあります。この結論からは、むしろ子どもたちに怪我がないかということが最優先されるべきことであり、先に結果を言ってほしかったなと思うこともたびたびありました。一方で、先に、「2階のトイレ前の蛍光灯を割ってしまいました」という結果から報告をしてくれる子どももいました。

なんで、2つのタイプがいるのかなと思っていましたが、それを解くヒントになったのが、私が異動の関係で、区役所で勤務しているときの出来事でした。私は課長という役職で係長以下・主任主事・主事を管理していましたが、ジョブローテーションで2課目として私の課に異動してきた6年目の職員Aさんが、あるとき「課長！」と言って係長への報告を飛ばして私のところに来たのです。私が「何ですか」と聞くと、Aさんご自身が抱えている業務の内容と現在が繁忙期であるという状況を話し始めたのです。私は、「業務分担の見直しについて係長を飛ばして課長に訴えに来たのかな」と思っていると、「～なので・・・をしてしまいました。」と地区内の園長・校長に迷惑をかけることになってしまったというミスを報告してきたのです。

私はAさんに、「そのことを報告するために、いろいろとあなたが大変だった状況を説明していたのですか」と聞くと、Aさんは「はい」と答えました。私はAさんに、「仕事では、悪いことほどすぐに報告すること、係長や課長に報告するときはまず結論から報告することっていうことを言ってきましたよね」と言うと、Aさんは「課長には事情を分かってほしかったので・・・」と言ってきました。私がAさんに「この件は、係長とも相談してどうにかしますが、仮に結論を先に言ってくれたら、その結論を聞いたあとに、どうしてそうなったのか、何が原因だったのか聞くのですから、そこで答えてくれればいいのですよ。それに、緊急事態でその場で聞けない場合でも、課内で同じミスが再発しないように、対応したあとにAさんに事情は聞きますよ。もしかして、結論だけを言うと、それだけで私があなたに対していい印象をもたなくなってしまうのではないかということをお心配したのですか」と聞くと、Aさんは「そうです」と答えました。

Aさんは、日ごろから「〇〇課はあれだけの人数がいて、やることも少ないから日中も暇にしているし退勤も早い」「同期の〇〇さんは、たいして能力がないのに〇〇課だからやっていけている」「〇〇課の〇〇係長は係員に全部丸投げで自分は何もやらない。それでいて責任もとらない。」「〇〇課長は答弁が長いから議員さんに怒られて係員がやりにくくなる」など、批判することがとても多く、要は人を常に否定的にみている人でした。

そこで思いついたのは、人を否定的にみている人は、自分も否定的にみられると思っているのではないかということです。振り返ると、担任時代の先ほどの「理由や状況を先に説明してくる」子どもたちは、共通して人の文句や愚痴を言っていたり、おいしい給食なのに「ゆで方が固い」などの注文を言ったり、「トイレの掃除なんか掃除屋さんがやればいいのに」などの要求をするなど、物事に対して否定的に見てしまう子どもたちでした。一方、「結果から報告してくる」子どもたちは、友達の言動に対して寛容で、特に特徴的な言動をする友達に対して、それをその子の個性と捉えて接したり、授業中ある友達の意見が全員から批判を受ける場面があったとしても、「そういう考え方があっていいと思う」とワークシートに書いたりする、いわゆる物事を肯定的に見る子どもたちでした。

●物事を否定的にみる人は、自分が失敗したときに言い訳から始まる。

そして、その姿は一般的に社会では、あまり好まれないものであり、「言い訳がましい」「いきぎよくない」と強く指摘されてしまう場合もある。

言い訳ばかり話す人は社会的にはあまり好まれません。仮に失敗したとしても、すぐにそのあやまちを認め報告し、反省し、原因を追究して同じ失敗を繰り返さないように前向きに突き進んでいく姿が評価されます。学校ではなおさらです。ミスをしてしまったらそれ自体はあとで取り返せばいいのですから、まずは言い訳などを長々と話さず、してしまったミスを正面から受け止め「やっちゃったな！」「失敗した！」と反省する姿の方が、人柄として友達からの好感も得るでしょうし、その子ども自身の成長にもつながると思います。教員は、必ず「どうしてそうしちゃったの

かな」と、同じ失敗が繰り返されないような指導とフォローはします。

学校では、昨年、ペップトークといって人を元気づける、勇気づける言葉を保健委員会が考えて各学級で毎日復唱するという活動をしました。これは、人を肯定的にみることもつながります。

学校でもご家庭でも、子どもを説諭するときは、当然あることと思います。しかし、日常生活では「料理してもらったものを『おいしいね』と言っていただく」「誰かに親切にさせていただいたときには『ありがとうございます』と感謝する」「ホテル・レストランなどのサービスを提供してくれる場では、それを当たり前とは言わず『ありがたいことだね』と言う」「近所の人など知り合いの方について話をするとき『あの人は心配してくれて、いろいろと気にかけてくれるんだね』などの好意的な話をする」など、物事を肯定的に見るような家庭・学校生活環境をつくっていくことが、言い訳ばかりを言わない気持ちのいい青年をつくりあげていくのではないのでしょうか。

長所の方に目を向けられる人柄が、結果的にその人のゆとりのある生活や幸せにつながっていくと思います。

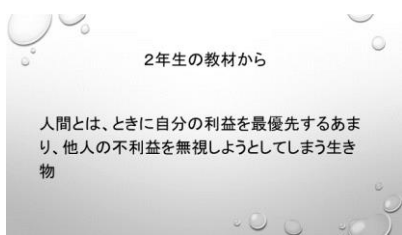
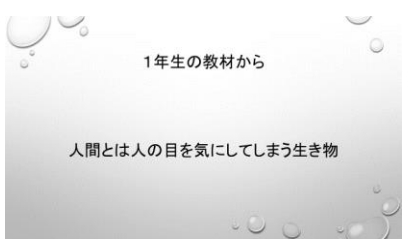
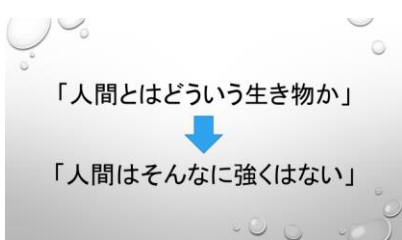
人間とはどういう生き物か

上記のような肯定的な見方をするためには、人に対する卓越した道德観が必要です。

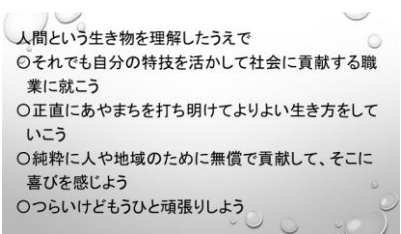
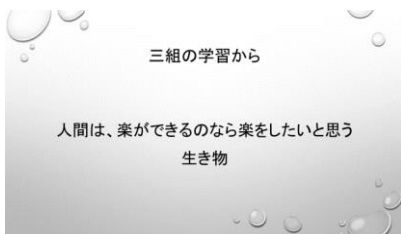
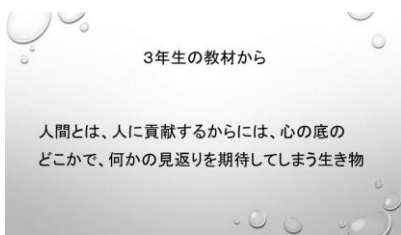
道德科の授業では、「人間としての生き方についての考えを深める学習を通して」学習の目標に迫ろうとしています。人間はそんなに強い生き物でも善行ばかりをする生き物でもありません。しかし、そういう特性をもっていることを自覚したうえで、それでも道德的な行為をとろうとする特性をもっているのも人間です。そこまで自己も含めて人間に対する理解が深まったとき、人や物事を肯定的にみることができるようになるのではないのでしょうか。

2学期の終業式するとき、私は、子どもたちに以下のような話を、教室のプレゼンテーションをもとに話しました。

<原稿の冒頭と最後は削除、
スライドは抜粋しています>



今日は、6月の朝礼でも触れましたが、道德科の学習についてお話しします。
小学校では「自己の生き方についての考えを深める学習を通して」学習の目標に迫りますが、中学校では「人間としての生き方についての考えを深める学習を通して」学習の目標に迫ることとなっています。
「自己」が「人間として」に替わっただけですが、どう違うのでしょうか。そこで、皆さんが、中学校でどのようなことに心がけて学習しなければならないかについて説明します。簡単に言えば「人間とはどういう生き物か」について理解した上で、学習を進めるということです。
中学生という発達段階は、私たち大人よりも清く正義感が強く、人はこうあるべきだという気持ちが強いと思います。しかし、人間はそんなに強くはありません。完全・完璧でもありません。そのことを、一人一人だけではなく、みんなで発言しあって「自分だけじゃない。みんなもそうなんだ。」と感ずることにより「人間とはどういう生き物か」という理解に行き着くのです。
例えば、1年生で4クラスは実施しましたが、60歳を過ぎた主婦がパートで新幹線の清掃の仕事をし始めた教材で「プライドを捨ててその仕事を始めた」という話がありましたね。皆さんの意見の中には、「自分の長所を生かせる仕事に就いた方がいいから人からどう見られるかは関係ない」「長く続けるためには好きな仕事をした方がいいから人からどう見られるかは関係ない」というもっともなものもありました。一方で、「人の意見も大切にしたい」「人からの評価は重要だ」と書いている人もいました。そうなんです。人間は多かれ少なかれ「他の人にどう思われているのか」「他の人に愛だと思われていないか」と人の目を気にしてしまう生き物なのです。3学期に学習する2クラスでは、どんな教材が楽しみにしててください。
2年生でレ・ミゼラブルの主人公ジャン・バルジャンの教材を使ったことがありましたね。最後、自分自身の過去の犯罪なのに全くの別人がえん罪として捕まったとき、自ら裁判所に名乗り出て、「その人ではない。私がジャン・バルジャンだ」と名乗り出る場面がありましたが、皆さんの意見の中に、「社会的地位や市民からの信頼を失うのはもったいない」「また牢獄生活に戻るなんてつらい」という感想がありました。そうなんです。人間は、ときに自分の利益を最優先するあまり他人の不利益を無視しようとしてしまうところがあるんです。
3年生で、会社を定年退職した男性がボランティアで高齢者の家を訪問して見



守りをする話がありましたね。主人公は、最初は「してあげている」「感謝されることを期待する」という気持ちでやっていましたが、あることをきっかけに「それではボランティアではない」ということに気が付きますが、みなさん純粋にそう思えましたか。やはり、何か社会貢献したからには、金銭などの見返りはなくても「ありがとう」とか「助かった」と言われて感謝されたいと思いませんか。そうなんです。人間とは、人に貢献するからには心の底のどこかで何らかの見返りを期待してしまう生き物なのです。

道徳科の授業だけではなく、道徳の学習はすべてで行われます。

三組では、ちょっと背伸びすれば届くような学習に取り組むことがありますね。ちょっと背伸びすることは、「できなかったことができるようになるんだから大切だ」ということは分かっているはずですが、でも、「そのちょっと背伸びする」ということを、「やだな」と思うことはありませんか。そうなんです。人間は楽ができるのなら楽をしたいと思う生き物なのです。

これらの、人間という生き物を理解したうえで、それでも自分の特技を生かして社会に貢献する職業に就こうとか、正直にあやまちを打ち明けてよりよい生き方をしていこうとか、純粋に人や地域のために無償で貢献して、そこに喜びを感じようとか、つらいけどもうひと頑張りしようとして生きていくことができるのも、人間の弱さや欲深さなどを克服して生きていこうと考えることのできる人間の特徴なのです。

3学期以降の道徳科の学習では、教材を読んで、他人事ではなく自分事として考え、自分の、いや誰もがもっているであろう人間の弱みなどから目をそらさずに、自分自身の中で葛藤してほしいと思います。発表し合ったり議論し合ったりすれば、そう感じたのは自分だけではないということが分かりますし、そのことにより皆さんは、人間とはどういう生き物なのかを理解したうえで、自分の生き方を見つけていくことができるのです。

お知らせ

- 第11回「荒川区図書館を使った調べる学習コンクール」で以下の成績を収めました。
 教育委員会賞 渡邊 愛果(3年)「世界の飢餓問題 ～飢餓をゼロに～」
 校長会賞 磯貝 優里(3年)「どっちが薬か毒か分かりますか? ～質の高い教育をみんなに～」
 奨励賞 濱田 莉々果(3年)「甘いコーヒー 苦いコーヒー ～南北格差とフェアトレード～」
- 荒川区中学校新人大会「卓球の部」で以下の成績を収めました。
 女子シングルス 第3位 伊藤紗英佳(1年)、國近咲希(1年)
 男子シングルス1年の部 第2位 大岩勇翔(1年)
 第3位 小笠原賢人(1年)、大杉司(1年)

女子団体 優勝

- 令和3年度 第15回「あらかわ小論文コンテスト」で以下の成績を収めました。

賞	氏名	学年	題名
教育委員会賞	菊澤 真結	2年	思いやりを大切に
奨励賞	元木 夏美	2年	自分らしさを大切にできる世界を
佳作	山下 莉菜	1年	私たち人間の罪
佳作	森田 葵生	2年	福祉問題の解決は不可能?
佳作	齊藤 百香	3年	今後求められる人材

- 令和3年度「税の標語」審査会で以下の成績を収めました。

賞	氏名	学年	作品
東京国税局間税会連合会入選	古賀 洋治	3年	納税が 国を支える 第一歩
荒川間税会入選	緒方 莉瑚	3年	税を知り 輝く未来へ バトンパス